

# 種子の採取・保存事業(2016)

## ●アマモ種子の採取

「なぎさ海道」アマモ場再生プロジェクトを各地域の市民活動団体の方々と協働して行うため、アマモ種子採取を以下のように行いました。

6月12日(日) 赤穂市海浜公園前

海岸への立ち入り禁止は解除されていないため、地曳網の後、当 NPO スタッフと相生湾自然再生学習会議の松村会長、関根前会長のお二人で種子採取を行いました。

6月14日(火) 姫路市白浜海水浴場前

白浜小学校3年生の環境学習の一つとして行って頂きました。

6月26日(日) 明石市江井ヶ島海水浴場前

地曳網の後、当 NPO スタッフで採取しました。

しかし、今年は水温が例年より高く、アマモの生育が早く、すでに種子が成熟して落ち、茎の根元が枯れ、花枝が流れ藻となって流出したのか、花枝が少なく、皆さん花枝を見つけるのが大変でした。このため、採取した種子数がこれだけでは足りません。

そこで、以下の日程で再度スタッフのみで採取しました。

7月1日(金) 赤穂市海浜公園前

7月4日(月) 明石市江井ヶ島海水浴場前

これで、皆さんに使ってもらえるだけの種子数は確保できました。

来年は兵庫県水産技術センターの水温調査結果をみながら採取日程を決めたいと思います。

## ●アマモ種子の養生

アマモ種子の養生は江井ヶ島港の岸壁で江井ヶ島漁協さんの施設を利用させて頂いて行っています。

養生する種子は自主的に採取した赤穂、姫路、明石の種子だけでなく、各地から送られてくる種子もあります。限られた水槽スペースでこれら種子が混ざらないよう分離して養生・選別するために、水槽を1mmメッシュのスクリーンで仕切っています。

5月23日(月)、水槽を清掃し、中仕切りのスクリーンの破損などが無いことを確認し、水槽に海水を入れて水漏れがないかどうかをチェックしました。これで、いつでも種子を受け入れることができます。



アマモ種子養生水槽



水張り試験

アマモ種子の水中養生は、アマモ種子が多量の場合は仕切り区画に花枝をそのまま水面に投入し、花枝を水中に浮遊させて養生します。また、少量の場合は、採取した鞘、花枝を目合い1mmの袋に入れ、水中に吊り下げて養生します。



花枝の投入



養生袋による水中養生

## ●アマモ種子の選別

アマモ種子の選別作業は7月23日からお盆前の8月5日まで行いました。

多量の種子で花枝をそのまま投入した仕切りでは、だんだんと水面下に没していき、茎や葉が茶褐色になり、約1ヶ月の間に水槽の底に堆積します。この時点で種子は鞘から落ちていきますので、サイフォンで全て吸い上げ、容器に移します。



だんだんと花枝は底に沈んでいきます

少量の養生袋では、水槽内から養生袋を取り出し、袋を開けて花枝の状態をみます。そして、種子が鞘から落ちていることを確認し、容器に移し替えます。



種子が鞘が落ちていることを確認し、容器に移す

そして、大きな茎をまず除去し、次に小さな茎、葉を除去します。



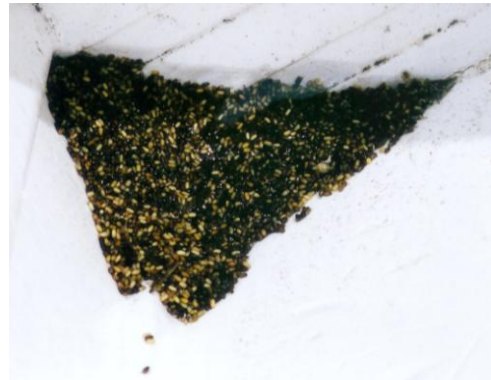
腐敗した茎、葉などを除去

海水により細かな雑物を流して、種子だけにします。比重の小さい、白色の未熟な種子も一緒に流します。



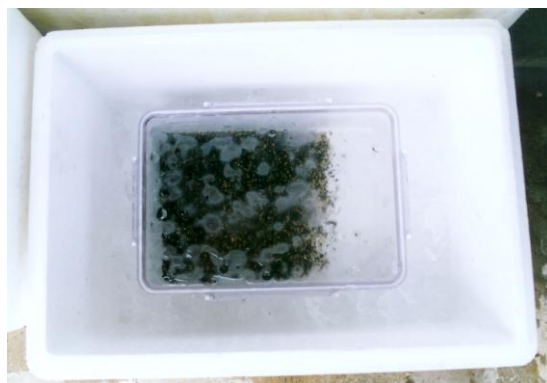
選別作業

小さな巻貝、二枚貝、アメフラシなどは除去し切れませんが、できるだけアマモ種子だけにします。



アマモ種子だけに

種子を容器に入れ、運搬時には水温が上がらないよう容器の周りに氷を入れます。



氷を入れて運搬

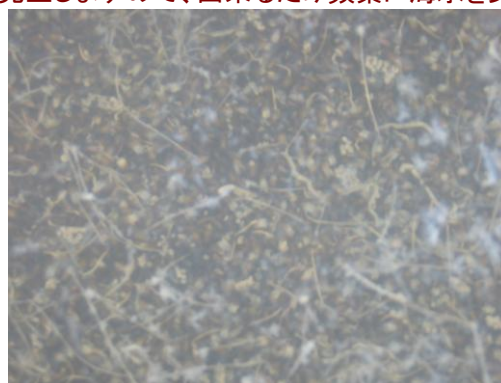
## ●アマモ種子の保存

事務所に持ち帰った種子は、恒温高湿箱で温度 4℃で、種蒔きを行うまで保存しておきます。



恒温高湿箱で保存中のアマモ種子

アマモ種子保存中は、海水中に白い好気性微生物が発生しますので、出来るだけ頻繁に海水を交換します。



白い好気性微生物が発生する。

白い微生物が繁殖し、海水中の溶存酸素量が少なくなると、表面のアマモ種子が発芽する。発芽した種子は比重が小さくなるのか、海水を交換する毎に流失します。種子が生きていることの証ではありますが、健全な種子を失うので、喜んでいいのか、悲しむべきか複雑な気持ちになり、早く10月にならないかなと思います。



保存中に発芽したアマモ種子

---

なお、今年度のアマモ種子採取・養生・保存の一部は省エネ住宅ポイント事業による環境寄附金、あいおいニッセイ同和損保 WEB 約款寄付を受け、「なぎさ海道」アマモ場再生プロジェクトの一環として、各地域の市民活動団体、行政ほかと協働して行っています。